再開発後の街〝見える化〟

桜町・花畑地区

崇城大など 体験コーナー開設

まちづくりテラスには３次元画像を見られるパソコンのほかに、1000分の１の中心市街地の模型も展示している＝熊本市中央区

崇城大など3研究室の共同チームが、再開発が進む熊本市の桜町・花畑地区の将来の街並みを3次元画像で再現するソフトを開発。23日、花畑広場（仮称）内の「まちづくりテラス」に体験コーナーを設けた。25日まで一般公開する。

桜町・花畑地区の将来像を目に見えるようにして市民の意見を引き出し、市が一帯で手掛ける公園や街路の整備に反映させる狙い。崇城大工学部の古賀元也助教、同大情報学部の和泉信生助教、熊本高専の森下功啓助教の共同チームが市の委託を受け、約1年かけて制作した。

ソフトは、ＭＩＣＥ施設などが入居する再開発ビルや花畑公園、地区の中心を貫くシンボルプロムナードなどの完成後の姿をコンピューターグラフィックス（ＣＧ）で画像化。パソコンのマウスを動かして実際に街を歩く感覚を味わい、上空などさまざまな角度から新しい街を眺めることができる。日照も時間を追って再現し、建物がどう影をつくるかが分かる。

会場にはパソコン2台を設置。体験した人が気付いた点や要望などを書き込む。意見は12月に開く同地区のまちづくりワークショップで紹介する。

インターネットでの公開も準備中で、「できるだけ多くの人にまちづくりを考えてもらいたい」と古賀助教。制作に加わった崇城大工学部４年の吉永翔平さんは「道路舗装の素材やベンチの設置場所など、どんな街にしたいか自由に意見を寄せてほしい」と話している。

（宮崎あずさ）

2015年10月24日　熊本日日新聞　P17